

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	e toco		
○保護者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 5日		～ 令和 8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの気持ちや特性を尊重した関わりを通して、安心して過ごせる環境づくりに努めており、事業所が子どもたちの「居場所」となりつつある。	子ども同士の関わりを無理に促すのではなく、それぞれの安心できる距離感を尊重して支援している。 子ども一人ひとりの特性や気持ちに配慮し、安心して過ごせる環境づくりを行っている。 活動だけでなく、何もしない時間や個々のペースを尊重する時間を確保している。	安心して過ごせる「居場所」としての役割を意識しつつ、小さな成功体験や自己肯定感につながる活動を取り入れている。 学校や家庭と連携し、子どもの安心感や変化について共有しながら継続的な支援に繋げていく。
2	利用児童の提案を尊重し、1人では実現が難しい内容についても、職員全体で方法を検討し、環境を整えることで主体性を活かした支援を行っている。	利用児童から「やってみたい」「挑戦してみたい」という提案を丁寧に受け止め、実現に向けた可能性を職員間で検討している。 子ども1人では難しい内容についても、安全面や環境面を整理し実現可能な形に工夫している。 子どもの意見や思いを尊重し、否定せず、まず受け止める姿勢を職員全体で共有している。	子どもの提案を記録し、支援計画や活動内容の見直しに継続的に活かす仕組みづくりを行う。 年齢や発達段階に応じて、意見表明や選択の機会をより増やしていく工夫を行う。 職員間での事例共有を通して、子どもの主体性を引き出す支援方法の質の向上を図る。
3	令和7年10月より、保護者様参加型のイベントを企画・実施し、職員と保護者様が直接交流できる場を設けている。 ※イベントを通して、日常の支援の様子や子どもの成長を共有する機会となり、保護者様との信頼関係の構築に繋がっている。	保護者様が参加しやすいように事前に内容・目的・流れを分かりやすく案内し、安心して参加できる環境づくりを行っている。 保護者様が気軽に話しやすい雰囲気づくりを心掛け、一方的な説明にならない双方向のコミュニケーションを大切にしている。	保護者様同士の交流の機会も意識し、子育ての不安や悩みを共有できる場づくりに繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の学童クラブや他の児童施設、地域の児童との交流の機会が少なく、地域とのつながりが十分に持てていない現状がある。	日常支援や個別対応を優先する中で、外部との交流機会を計画的に設けることが難しかった。 子ども一人ひとりの特性に配慮する必要がある、交流の方法や場面設定に慎重さが求められている。	地域交流についても子どもの安心感を最優先に進める必要性を認識していく。 地域の学童クラブや児童施設との情報交換を行い、見学や小規模な交流など段階的な取り組みから検討していく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		e toco		公表日		令和 8年 3月 3日			
		利用児童数		25世帯		回収数		18世帯	
		チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		13	3	1	1	もう少し広くても良いかなと思います。	動と静の活動を分けるなど、子どもが安心して過ごせる環境調整を継続する。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		12	4		2		保護者様にも支援体制が伝わるように、日々の関わりや支援内容の説明を丁寧にを行う。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		14	1		3		視覚支援や掲示物の工夫など、子どもに分かりやすい環境づくりを継続する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		17	1				掃除・整理整頓を継続し、安全で心地よい生活空間の維持に努める。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		16	2				子ども一人ひとりの特性や課題を職員間で共有し、個別性を大切にした支援を継続する。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。		17	1				計画と日々の支援がつながるよう、職員間で定期的に振り返りを行う。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。		16	2			細かく聞き取りをして作成してもらっています。	子ども本人および保護者様からの聞き取りを丁寧にを行い、ニーズや課題を客観的に整理したうえで個別支援計画を作成する取り組みを今後も継続する。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。		16	1		1		ガイドラインに基づき、「本人支援」「家族支援」「移行支援」の視点を踏まえた目標設定と具体的な支援内容の記載を継続する。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。		15	2		1		個別支援計画の内容を職員間で共有し、計画に基づいた一貫性のある支援の実施を継続する。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		13	3		1	たくさん種類の活動をしてもらい、本人も楽しんでます。	子どもからの「やってみたい」という声を大切にし、主体性を引き出す活動の提供を行う。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		8	3	3	4		地域行事や公共施設の活用など、無理のない範囲で地域とのつながりを持つ機会を検討する。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		16	1	1			利用開始時に、運営規程・支援プログラム・利用者負担等について丁寧な説明を行う取り組みを継続する。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		18				面談時に説明があります。	今後も「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援のねらいや内容について分かりやすく説明する。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		16	4	3			保護者様が参加しやすい形で情報共有や、今後のニーズに応じた家族支援の在り方を検討する。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができてきていると思いますか。		16	1	1			送迎時のやり取りやアプリ等を通じて、子どもの様子を保護者様と伝え合う取り組みを継続する。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		14	3	1			必要に応じて個別面談を行い、子育てに関する相談や助言の機会を確保する。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		17		1		子どものことを理解してくれていて心強いです。	子どもや保護者様の思いに寄り添った、共感的な関わりを今後も大切にする。
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		4	8	3	3		保護者様同士やきょうだい児が交流できる機会については、ニーズや状況を踏まえながら今後の在り方を検討する。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		13	3	1	1		相談や申入れに対して迅速かつ適切に対応できる体制を兼ね評価されている。今後も相談窓口や対応体制について分かりやすく周知するとともに、子ども・保護者様が安心して相談できる環境づくりを継続する。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15	2	1		子どもや保護者様との意思疎通については一定の評価を得ていることから、今後も送迎時のやり取りやアプリ等を通して、丁寧な情報共有を行い、相互理解を深めていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	2	1	1	アプリで毎日の活動を報告してもらえて助かります。活動内容や行事予定等については発信しているものの、十分に伝わっていないと感じるご家庭もある為、通信やSNS等を活用し、より分かりやすく継続的な情報発信に努める。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	1			個人情報の適切な管理については、高い評価を得ていることから、引き続き職員への周知徹底を行う、個人情報保護に十分配慮した運営を継続する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	4		3	事故防止や感染症対策等のマニュアル整備については、一定の評価を得ているが、今後は内容や訓練実施について、保護者様への周知方法を工夫し、より安心して利用できる体制づくりに努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	12	3		3	避難訓練等は実施しているものの、十分に伝わっていない面もある為、訓練の実施状況や内容について、保護者様への情報共有を工夫していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	15	1		2	安全管理に基づいた支援を徹底し、保護者様への説明を継続する。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15		2	1	これまでに事故等ありませんが、万が一の時にもきちんと対応してもらえと思っています。事故等があった場合は、今後も迅速かつ丁寧な対応を継続する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13	4		1	職員の先生がいつも良く接してくれているので、本人も安心して話ができます。事業所で行われる様々な行事を楽しみにしており、賑気などなく通所することができています。安心して通所できているという評価を大切に、今後も子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った支援と安心できる環境づくりに継続する。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	1	1		いーとこが1番安心して通所できているようです。友達や先生が大好きでとても楽しく通っています。色々な遊びや体験を計画してくれているので、すごく良い経験になっています。通所を楽しみにしているとの評価を受け、引き続き子どもの興味・関心を大切に活動内容の充実を図る。
	29	事業所の支援に満足していますか。	17	1			いつも子供の話を聞いてくれて対応してくれていることで本人も安心しています。大変満足しています。いつもありがとうございます。子どもの特性を理解した上で、丁寧な支援をして頂いています。支援員さんも穏やかそうな方が多く、安心してお任せできています。事業所の支援に対する満足度は高い結果になっているが、今後も現状に満足することなく、保護者様の意見を活かしながら、支援の質の向上に努める。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		e toco	公表日 令和 8 年 3 月 3 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		利用定員を踏まえ、活動内容や人数に応じてスペースを使い分けることで、子どもが落ち着いて過ごせる環境づくりを行っている。	今後は、活動の幅が広がることを想定し、より柔軟な空間の活用方法について検討していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		基準を満たした職員配置を行い、子どもの特性や活動内容に応じて役割分担を工夫している。	突発的な状況にも対応できるように引き続き職員間の連携強化を図る。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	2	文字やイラスト、視覚支援を活用し、子どもに分かりやすい環境づくりを行っている。	子どもの成長や特性の変化に応じて、掲示物や支援方法の見直しを継続する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		定期的な掃除・整理整頓を行い、安心して過ごせる環境を維持している。	活動内容に応じた環境設定について、さらに工夫の余地がないか検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		必要に応じて個別のスペースを確保し、クールダウンや気持ちの切り替えができるように配慮している。	子ども自身が安心して選択できるように支援方法の工夫を続ける。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		目標設定や振り返りを職員間で共有し、業務改善に活かしている。	より多くの意見を取り入れられるように話し合いの方法を工夫する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		保護者評価を通して意見を把握し、業務改善に反映している。	評価結果をフィードバック方法について、さらに分かりやすく伝える方法を行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		日常的なミーティング等を通して職員の意見を共有している。	記録や振り返り方法を整理し、改善につながる仕組みづくりを強化する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	第三者からの評価を受け、事業所運営の改善に活かしている。	指摘事項をより具体的な改善行動に繋げていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		外部研修や内部研修を通して、職員の資質向上に努めている。	研修内容を日々の支援にどう活かすか、職員間で共有を深める。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		支援プログラムを作成し、保護者様へ分かりやすく公表している。	内容が形骸化しないように、定期的な見直しを行う。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		アセスメントを行い、子どもと保護者様のニーズを踏まえた計画を作成している。	成長や環境の変化に応じた見直しのタイミングを意識する。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		関係職員間で共有理解を図りながら、子どもの最善の利益を考えた支援を行っている。	より多角的な視点を取り入れられるように検討を重ねる。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		支援計画を職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	支援の実施状況について、定期的な振り返りを強化する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5		行動観察やツールを活用し、多角的な視点で子どもの状況を把握している。	記録の統一や活用方法について整理を進める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		本人支援・家族支援・移行支援・地域連携を意識した計画を作成している。	地域資源との連携について、今後さらに検討を進める。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		職員間で意見を出し合い、活動プログラムを立案している。	子どもの意見をより反映できる仕組みづくりを検討している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		個別・小集団・集団活動を組み合わせ、曜日や季節、子どもの興味に応じて活動内容を工夫している。	活動のねらいがより明確に伝わるように振り返りや記録の工夫を行う。

供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		子どもの状況に応じて個別支援と集団活動を適切に組み合わせ、計画に反映している。	活動の組み合わせがより効果的となるように、定期的な見直しを行う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		支援前に活動内容や役割分担を確認し、共通理解のもと支援を行っている。	時間が限られている中でも、要点を整理した共有方法を検討する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	支援開始前に職員間で振り返りを行い、気づきを共有している。	忙しい日でも振り返りが継続できるように記録方法を工夫する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		日々の支援記録を通して、子どもの状況把握と支援改善に繋げている。	記録の視点を統一し、より活用しやすい形に整理する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		定期的なモニタリングを行い、必要に応じて支援計画の見直しを行っている。	保護者様との共有方法について、さらにわかりやすく工夫する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5		ガイドラインの4つの基本活動を意識し、支援内容に反映している。	ガイドラインの理解を深めるため、職員間での確認を継続する。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		子どもが選択できる場面を設け、自己決定を尊重した支援を行っている。	選択肢の提示方法について、発達段階に応じた工夫を検討する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		関係機関の会議に参加し、情報共有と連携を図っている。	得られた情報を職員全体で共有する仕組みを強化する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		必要に応じて保健・医療・福祉・教育機関と連携している。	地域資源の把握を進め、連携の幅を広げていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		学校と情報共有を行い、送迎や緊急時の連絡体制を整えている。	情報共有のタイミングや方法について整理を行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	相談支援事業所を通じて、就学前施設との引き継ぎを行っている。	連携内容をより具体的に支援へ反映する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		卒業や移行時に必要な情報提供を行っている。	移行後を見据えた支援について、早期から検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	必要に応じて助言や情報提供を受けている。	スーパーバイズの機会について、今後も検討を行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	5		地域イベント等を通じて交流の機会を設けている。	子どもの特性に配慮しながら、交流の在り方を検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		研究会や協議会へ参加し、情報収集を行っている。	得た学びを事業所内で共有し、実践に繋げる
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		送迎時や面談を通して、日々の様子を伝えている。	情報の伝え方や面談を通して、日々の様子を伝えている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	家庭状況を踏まえ、助言や支援を行っている。	ペアレントトレーニング等の実施方法について検討する。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規程や支援内容について丁寧に説明している。	書面等を活用し、説明内容の理解を深める。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画作成時に意向を確認し、支援に反映している。	意向確認の記録方法について整理を行う。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		計画を示しながら説明し、同意を得ている。	より理解しやすい説明方法を検討する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		相談に応じ、必要に応じて面談や助言を行っている。	相談しやすい雰囲気づくりをさらに意識する。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4	1	行事等を通して交流の機会を設けている。	保護者会開催等について、ニーズを踏まえて検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		苦情があった場合は迅速に対応できる体制を整えている。	苦情対応の周知方法について再確認する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		活動内容や行事予定を定期的に発信している。	発信頻度や内容について見直しを行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の管理を徹底し、職員へ周知している。	定期的な確認と研修を継続する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		分かりやすい言葉や資料を用いて説明している。	子どもや保護者様に応じた伝え方をさらに工夫する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	地域住民や関係機関への周知を行っている。	地域との関係づくりを今後も検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		各種マニュアルを整備し、訓練を実施している。	内容の理解を深めるための共有を行う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		BCPを策定し、訓練を実施している。	訓練内容の振り返りを支援に活かす。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		利用前に状況を確認し、対応方法を共有している。	情報更新のタイミングを明確にする。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		医師の指示に基づき、適切に対応している。	誤食防止の確認を継続する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全計画を作成し、安全管理を行っている。	研修内容の定期的な見直しを行う。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	安全に関する情報を家庭へ共有している。	家庭との連携方法について整理する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事例を共有し、再発防止に努めている。	共有内容の活用方法をさらに検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		研修を行い、虐待防止意識を高めている。	継続的な研修実施を行う。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		ガイドラインに基づき、適切に対応している。	引き続き身体拘束を行わない支援の工夫を行う。	